

江戸時代後期を代表する小林^{いっさ}一茶の俳句に、
「世の中を^{なお} ゆり直すらん 日の^{はじめ} 始」という一句があります。新年早々に気持ちの区切りを付けたい、良い年になって欲しいと思うのは、今も変わらぬ願いではないでしょうか。昨年は、世界中で多くの災害が起こりました。今年こそは、^{はつひ}初日の出の勢いで、安らかな一年であって欲しいものです。

さて、新年の^{さん}三が日、^{にち}皆さんはどの様なお願いごとをなさったでしょうか。

「家族が幸せでありますように」、「いつまでも健康でありますように」、「試験に合格しますように」、「お金が儲かりますように」などと、^{だんだん}と自分中心の願い事が増えていってはいないでしょうか。

お寺では、お正月中、「^{だいほんにやえ}大般若会」または「^{しゅしょうえ}修正会」とう御祈願の法要が^と執り行われますが、これはお釈迦さまがおさとりになられた智慧を頂いて、日々の生活に活かされますようにと願う法要です。

お寺で^{おまも}御守りや御札をお受けになることが有りましたら、その願い事が叶うよう、お釈迦さまのお示しになられた^よみ教えを守り、自分の生きる道しるべ、^{しるし}拠り所として心の中に持ち続けることが大切です。その約束をしたお^{はだみ}印が御守りであり、御札なのです。^{ふだしょ}肌身離さず一年間大切にお持ちくださいと^ら札所などでいわれるゆえんです。

曹洞宗のお寺では、本堂の正面中央に、多くは御本尊様としてお釈迦さまをお祀りしています。それは、^{ほっかいじょういん}法界定印という^{いん}印を結んだ^{ぜんじょう}禅定のお姿で、修行の手本をお示しになっておられます。その前^てで掌を合わせる時には、同じように心安らかに生きたい、^{かな}み教えに適った生き方をしたいという願いを持ちましょう。これを、おさとりに^{あこが}憧れる心、^{ぼだいしん}菩提心といいます。そして、これからはそうした日送りをして生きてゆきますという^{ちか}お誓いを立てて頂きたいものです。

新年にあたり、新たな^{すがすが}お誓いを立てて、清々しい気持ちで過ごしてみたいかがで
しょうか。そして、その^{しよしん}初心を忘れることなく、一年間を過ごせたらどんなに素晴らしいことでしょう。